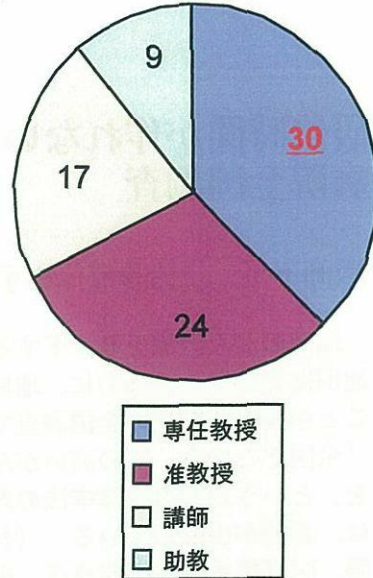


## 放射線腫瘍(治療)学講座があるのは12大学(15%)

- 京都大学
- 群馬大学
- 大阪大学
- 筑波大学
- 川崎医大
- 東海大学
- 慶応大学(核医学との複合講座)
- 奈良医大(核医学との複合講座)
- 東北大学
- 埼玉医大
- 熊本大学
- 近畿大学

## 放射線腫瘍学専任教員の職位



80医学部中、放射線治療講座は12講座、教授は30名のみ

## 照射事故

品質管理の不足が問題

## 示談総額は10億円

病院名	公表時期	継続期間	内 容
1. 赤の門病院*	01年4月	98年7月-00年12月 (2年5ヶ月)	フェニジファクターの入カミス 23人に過剰照射
2. 金沢大学病院	02年7月	00年6月-02年7月 (2年1ヶ月)	フェニジファクターの入カミス 12人に過剰照射
3. 国立弘前病院*	03年10月	95年4月-99年10月 (4年6ヶ月)	誤射と技師の経歴評価点の相違 276人に過剰照射(1人死亡?)
4. 山形大学病院*	04年2月	99年4月-03年11月 (4年7ヶ月)	照射野係数の入カミス 63人に過剰照射
5. 山形市立病院*	04年3月	02年10月-04年3月 (1年5ヶ月)	治療計画装置の操作ミスなど 25人に過剰照射
6. 竹田綜合病院*	04年4月	99年2月-04年4月 (5年1ヶ月)	線量計の使用済 258人に過剰照射
7. 和歌山県立病院*	04年5月	03年3月	治療計画装置の操作ミスなど 1人に過剰照射(それにより?死亡)
8. 岩手県立病院*	04年5月	98年9月-04年2月 (5年5ヶ月)	フェニジファクターの入カミス 111人に過剰照射

2005年(第17号)11月21日(日)16頁20頁

事故をめぐるとまなび

事故をめぐるとまなび  
事故発生原因が不明なまま、内部調査も開始  
事故原因を調査し、再発防止策を講じる。また、関係者に対する謝罪や賠償も進められている。

### 弘前病院 過剰照射

個別交渉が終了  
ほぼ合意、数組不調

【弘前市】弘前病院の照射事故で、被害者側と病院側との個別交渉がほぼ完了した。被害者側は、賠償金や謝罪文の提出を求め、病院側は謝罪文の提出を拒否している。交渉は、被害者側が病院側の説明を聞き、納得した上で進められている。しかし、一部の被害者側は、賠償金や謝罪文の提出を求め、病院側は謝罪文の提出を拒否している。交渉は、被害者側が病院側の説明を聞き、納得した上で進められている。

【弘前市】弘前病院の照射事故で、被害者側と病院側との個別交渉がほぼ完了した。被害者側は、賠償金や謝罪文の提出を求め、病院側は謝罪文の提出を拒否している。交渉は、被害者側が病院側の説明を聞き、納得した上で進められている。しかし、一部の被害者側は、賠償金や謝罪文の提出を求め、病院側は謝罪文の提出を拒否している。交渉は、被害者側が病院側の説明を聞き、納得した上で進められている。